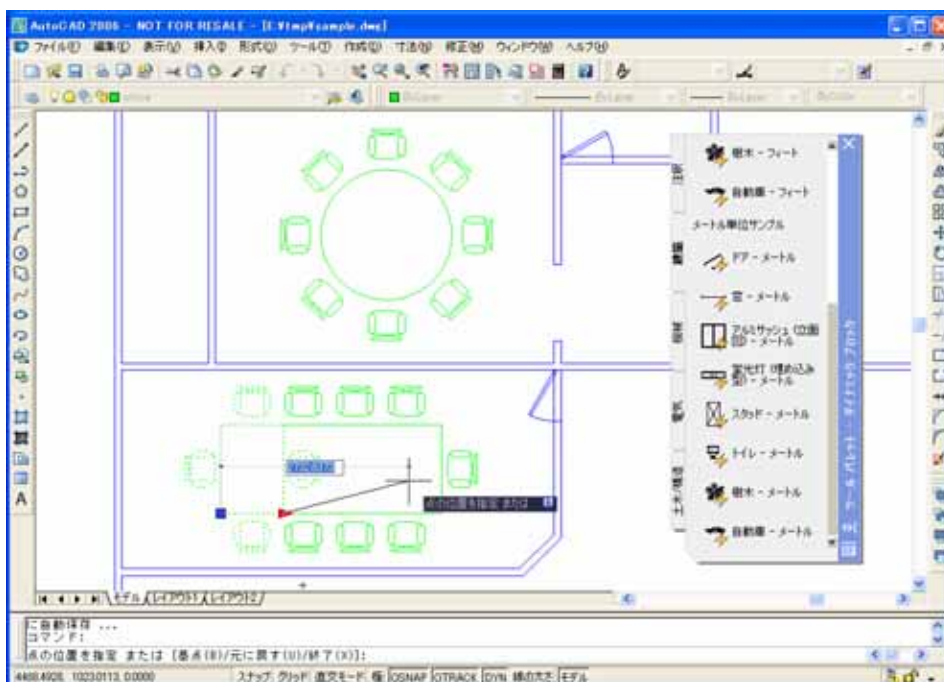


AutoCAD®  
2006

## AutoCAD 2006 概説書



AutoCAD の 20 回目のリリースとなる AutoCAD 2006 は、すぐに使える生産性の高いソフトウェアです。ダイナミック ブロック、高度なハッチング機能などの新しい作図ツールによって、手間のかかる作業を効率よくさばくことができます。ダイナミック入力やブロック属性書き出し、計算機など、直感的に操作できる新しい機能と、シート セットマネージャやツール パレットといった既存のパワフルなツールを組み合わせれば、プロジェクトのサイズを問わず、設計データをうまく管理することができます。図面の自動修復機能も搭載していますので、万一のときも安心です。AutoCAD 2006 は、ユーザのあらゆるニーズを満たし、設計業務の生産性を飛躍的に向上するソフトウェアです。



# 目次

## 1 図面を作成する

1.1	ブロック図形がインテリジェントに	5
1.1.1	複数の表示オプションから選択する	5
1.1.2	挿入基点間の循環	5
1.1.3	図面形状との位置合わせ	6
1.1.4	ブロック図形を編集する	6
1.2	設計業務に集中できる	6
1.2.1	作業位置でデータを表示、入力する	6
1.2.2	コマンドと最近のデータを使用する	7
1.2.3	ズームする、画面移動する	8
1.2.4	オブジェクトを選択する	9
1.2.5	尺度リストをカスタマイズする	9
1.2.6	数値計算を実行する	10
1.3	図面に注釈を追加する	11
1.3.1	インプレイス テキスト編集を行う	11
1.3.2	番号付きリスト、箇条書き記号付きリストを作成する	11
1.3.3	寸法引き出し線の線種を変更する	12
1.3.4	寸法引き出し線の長さを変更する	12
1.3.5	円弧の長さ寸法を記入する	13
1.3.6	折り曲げ寸法で大きな半径寸法を記入する	13
1.3.7	寸法矢印を反転させる	14
1.3.8	部材の初期長さを表記する	14
1.3.9	ブロック属性データを表に書き出す	14
1.3.10	表に計算式を埋め込む	15
1.4	ハッチングする	17
1.4.1	ハッチの原点を再定義する	17
1.4.2	ハッチング領域の選択	18
1.4.3	複数のハッチング オブジェクトを作成する	18
1.4.4	ハッチング面積を確認する	19
1.5	作図と編集	19
1.5.1	一般的な編集コマンドを使用する	19
1.5.2	類似したオブジェクトを結合する	20
1.5.3	マルチラインを作成、編集する	20
1.5.4	3D 図形のオブジェクト スナップに Z 値を適用する	21

## 2 管理する

2.1	ダイナミック ブロックを定義する	22
2.1.1	パラメータを定義する	23
2.1.2	アクションを追加する	23
2.2	ユーザ インタフェースをカスタマイズする	24
2.2.1	設定を一時的に上書きする	25
2.2.2	ツール パレットをカスタマイズする	25
2.2.3	ワークスペースを活用する	26
2.2.4	ツールバーとウィンドウをロックする	26

2.3	Windows エクスプローラで AutoCAD ファイルを検索する .....	27
2.4	破損した図面を復元する .....	27
<b>3</b>	<b>共有する</b>	
3.1	吹き出しによる外部参照変更通知 .....	28
3.2	重なったオブジェクトの交差する外観をプレビューする .....	28
3.2	改善された DWF .....	28
<b>4</b>	<b>さらなる効率化のために</b>	
4.1	旧バージョンからのマイグレート .....	30
4.2	新しい機能を学習する .....	30
4.3.1	新機能ワークショップ .....	30
4.4.1	クイックスタートリンク .....	31
4.5	サブスクリプション関連情報 .....	31

# 図面を作成する

## ブロック図形がインテリジェントに

ブロックは、現実世界でのオブジェクトを表すために使用され、ほとんどすべての図面で重要な要素となります。さまざまな種類のオブジェクトを表す場合、それと同じ数だけブロックを定義する必要があります。何百ものブロックを定義してもなお、特定のブロック図形の外観を調整するために、ブロックの分解、形状の編集などを行わなければならない場合があります。このような方法をとると、図面が非常に大きなサイズになり、また統一性のない不正確なものになってしまう恐れがあります。

AutoCAD 2006 では、新しいパワフルなダイナミックブロックによって、ブロック図形の外観を分解することなく編集することができます。また、ブロック図形を図面に挿入するとき、または挿入した後に編集できます。

### 複数の表示オプションから選択する

ブロック定義では、特定のシンボルについて複数の表示を設定することができます。挿入時に、どの表示を使用するか選択できます。たとえば、1つのブロック定義に、蛇口の複数のビュー、ベッドの複数のサイズ、バルブの複数の表示などを保存できます。

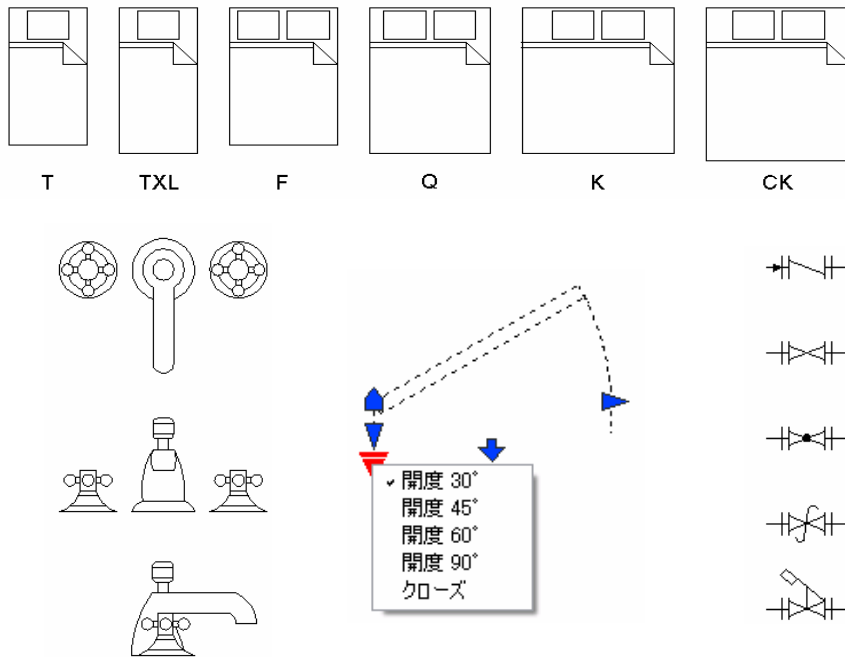


図 1. ブロック内での複数の表示オプション

### 挿入基点間の循環

ダイナミックブロックを配置する際、現在の状況に最も適したキー挿入基点を探すために各基点間を循環させることができます。挿入基点間を循環できることにより、ブロックを挿入後に移動させる必要がなくなります。

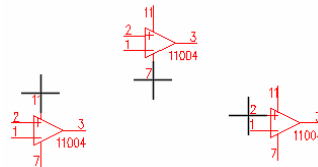


図 2. 複数の挿入基点

### 図面形状との位置合わせ

カーソルを図面内の図形のそばに移動させると、ブロックが自動的に他のオブジェクトと位置合わせされます。たとえば、下図のようにキッチンの壁に沿ってレンジを設置させたい場合でも、簡単に位置合わせができます。

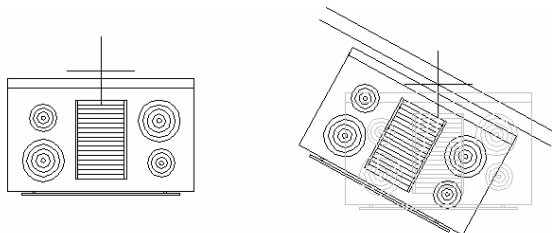


図 3. 自動位置合わせ.

### ブロック図形を編集する

ダイナミック ブロック内の特殊グリッブによって、個々のブロック図形を移動、尺度変更、ストレッチ、回転、配列複写、反転することができます。\_ブロックの変形ルールを、最大～最小値間の特定の値に制限したり、プロパティ定義の固定リストによって制限することができます。たとえば、全長を 1～4 cm の間でストレッチできるボルトがあるとします。このボルトは、0.5 cm ごとにストレッチするように設定されており、ボルトをストレッチするとねじ山が自動的に追加、削除されます。また別の例として、円、文字、引出線を含む吹き出しブロックが挙げられます。文字と円を動かすことなく、引出線を円の周りで回転させることができます。さらに別の例としてドア ブロックが考えられます。ドアの幅をストレッチしたり、ドアの開く方向を反転させることができます。

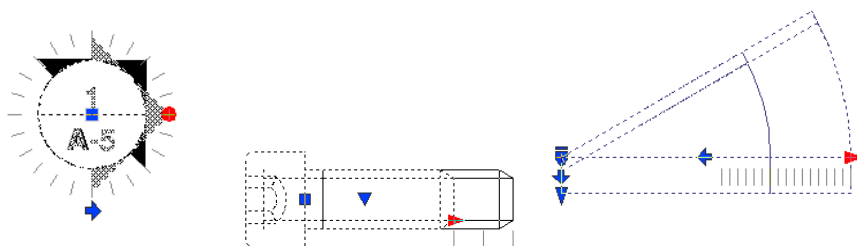


図 4. 編集可能なブロック図形

## 設計業務に集中できる

AutoCAD 2006 では、ユーザ インタフェースが大幅に改善され、操作の手間が簡略化されたため、設計業務に集中することができます。

### 作業位置でデータを表示、入力する

これまでは、図面でオブジェクトを作図、編集するとき、コマンド ラインに表示されるプロンプトに頻繁に回答する必要がありました。また、コマンド ラインの内容を読み損なうと、重要なフィードバックやオプションを見落として、エラーの原因となってしまうこともありました。つまり、注目する場所を、カーソル位置とコマンド ラインの間で頻繁に変える必要がありました。初心者にも AutoCAD の操作方法を教えた経験があるユーザならば、常にコマンド ラインを見るよう注意を促す必要があったことから、これがどれだけ面倒か実感されたことでしょう。

AutoCAD 2006 では、新しいダイナミック入力設定によって、コマンドの実行、プロンプトの確認、値の入力をカーソルの位置で行えるため、図面の編集位置から注意をそらす必要がありません。長さや角度などの寸法値を、図形を作成、編集しながらダイナミックに表示でき、[Tab]キーで値から値へジャンプすることができます。

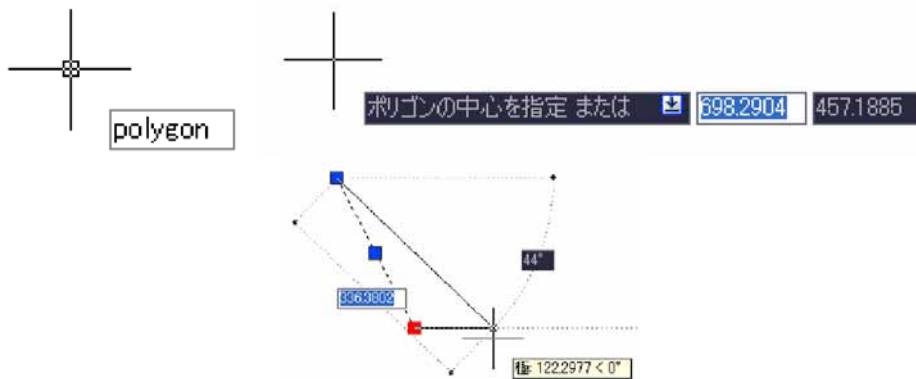


図 5. ダイナミック入力の有効になっている状態

ダイナミック入力は、ステータスバーの新しい設定ボタンで有効/無効を切り替えることができます。[作図補助設定]ダイアログボックスに新しく追加されたタブでは、ダイナミック入力機能で使用する書式、表示方法、外観を設定することができます。

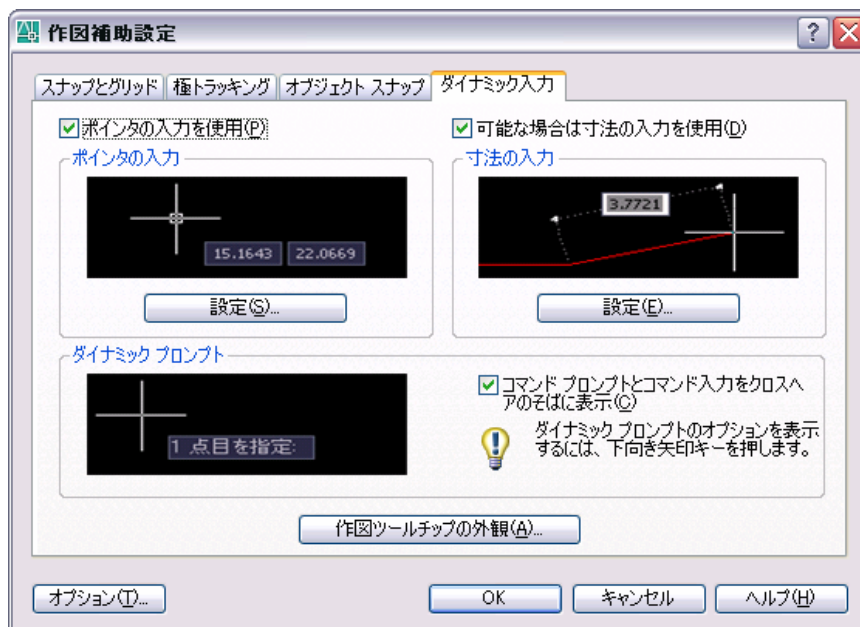


図 6. [ダイナミック入力]タブ

コマンドラインは、長い間 AutoCAD の重要な要素として使用されてきたため、廃止されることはありません。しかし、AutoCAD 2006 のダイナミック入力を実際にご使用いただくと、コマンドラインに注目する頻度が大幅に少なくなることを実感できるはずです。

#### コマンドと最近のデータを使用する

ユーザの皆様の中には、コマンド名を暗記されていて、使用頻度の高いコマンドならば無意識に入力できるのでコマンドラインでの入力になら不便を感じない方もいらっしゃるでしょう。しかし、あまり使用しないコマンドを使うときは、正確なコマンドを思い出すために時間がかかることがあります。たとえば、「EATEXT」と「EATTEXT」のどちらが正しいか思い出せないこともあります。

AutoCAD 2006 では、オートコンプリート機能によってコマンドラインがより使いやすくなっています。コマンドプロンプトで、システム変数やコマンド(ARX 定義コマンドやコマンドエイリアスを含む)の入力を開始し、途中で[Tab]キーを押すと、該当するオプションが順に表示されます。たとえば、コマンドプロンプトに「EAT」と入力し、[Tab]キーを何度か押すと、EAT (拡張属性)オプションが順に表示されます。

AutoCAD コマンドをしばらく使用していると、同じデータの値を何度も入力する場合があります。このような同じデータ入力の繰り返しは、効率が悪いだけでなくエラーの原因にもなります。

AutoCAD 2006 の「最近の入力」機能を使用すれば、間違いを少なくし、時間を節約することができます。コマンドラインで上向き矢印または下向き矢印を押すか、右クリックメニューから[最近の入力]を選択して、最近使用した値(点、距離、角度、文字列など)を表示できます。最近使用した値は、状況に応じて表示されます。たとえば、コマンドラインに距離を入力するプロンプトが表示された場合、「最近の入力」機能を使用するとこれまでに入力された距離の値が表示されます。ROTATE コマンドの角度を入力するプロンプトでは、これまでに入力された回転角度が表示されます。「最近の入力」機能は、INPUTHISTORYMODE システム変数で設定できます。



図 7. [最近の入力]メニューオプション

### ズームする、画面移動する

AutoCAD で設計作業をするとき、図面内で頻繁にズームしたり画面移動したりする必要があります。これまででは、ズームすると、方向が分からなくなり、図面のどの場所にズームしているのかわからなくなったり、元の表示にすぐに戻る必要が生じる場合があります。また、何度もズームしたり画面移動すると、元の表示に戻すために[元に戻す]コマンドや[やり直し]コマンドを実行しなければならないなど、面倒でした。

AutoCAD 2006 では、ズーム機能と画面移動機能が改善されました。新しく VTENABLE というシステム変数が追加され、表示領域での変更においてスムーズズームを適用することができます。たとえば、滑らかな推移の表示を有効にしてオブジェクト範囲ズームを実行すると、図面の指定範囲にズームする様子がダイナミックに表示されます。この機能によって、図面内での視覚的な方向が分からなくなることがありません。[オプション]ダイアログボックスの[基本設定]タブの新しいオプションでは、連続したズーム操作および画面移動操作を 1 つの操作にグループ化でき、ズームと画面移動のプロセスをさらに改善することができます。元の表示に戻すための操作を最小限に減らすことで、時間を節約し、効率をアップすることができます。



図 8. 元に戻す/やり直しの制御



## オブジェクトを選択する

図面内でのオブジェクト選択が難しい場合があります。例えば、1つのオブジェクトを選択するために、選択と[Esc]キーによる解除を繰り返して試行錯誤する場合があります。AutoCAD 2006 で提供されている新しいオブジェクト選択機能ならば、キーボードの[Esc]キーを磨耗するほど押す必要がなくなります。ダイナミックな視覚的フィードバックによって、正しいオブジェクトであることを確認してから選択することができます。

カーソルをオブジェクトの上に置くと、そのオブジェクトがハイライト表示されるため、クリックする前に選択しようとしているオブジェクトを確認できます。カーソル配置によるハイライト表示で、選択ミスを最小限に抑え、選択内容を正確に予測することができます。また、実際にオブジェクトを選択することなく、閉じたポリラインなどのオブジェクト全体を、線分セグメントなどの個々のオブジェクトと識別することができます。さらに、複数のオブジェクトを選択すると、半透明の選択ウインドウによって、オブジェクトの選択領域を明確に識別できるようになりました。[オプション]ダイアログ ボックスの[選択]タブの新しいコントロールで、オブジェクトの選択操作を変更することができます。

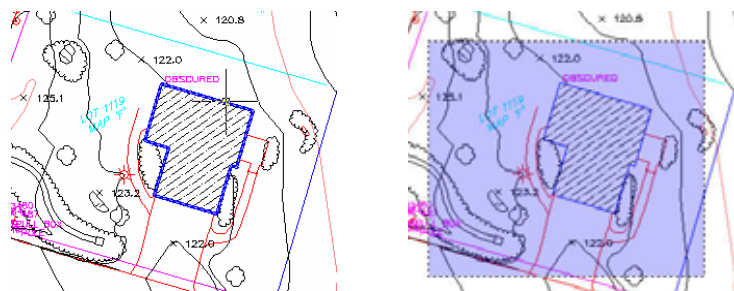
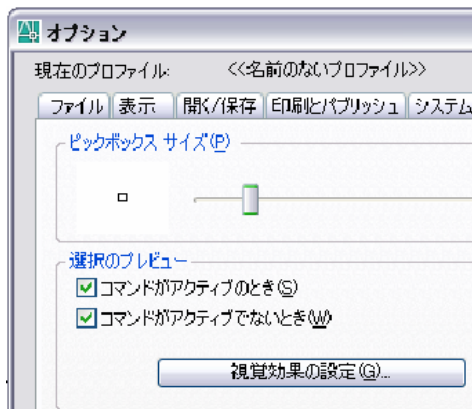


図 9. カーソル配置によるハイライト表示と選択領域

## 尺度リストをカスタマイズする

ほとんどの AutoCAD 図面では、図面の尺度が非常に重要です。AutoCAD 全体において、尺度が必要な機能では尺度リストを使って標準尺度を選択できます。ただし、ユーザの慣例や地域によっては、既定値の尺度が適していない場合もあります。たとえば、日本の製造エンジニアであるユーザは、「1/4"=1」といったインペリアル法の建築尺度は通常は使用しません。代わりに、既定値の尺度リストにないメートル法尺度を必要とします。

AutoCAD 2006 では、各ユーザのニーズに合うカスタムの尺度リストを簡単に作成、管理できます。新しい SCALELISTEDIT コマンドによって[尺度リストを編集]ダイアログ ボックスにアクセスし、新しい尺度を追加したり、既存の尺度を編集したり、尺度リストを整理したり、不要な尺度を削除することができます。[尺度リストを編集]ダイアログ ボックスのすべての尺度を、AutoCAD の以下のような場所に自動的に表示することができます。

- [印刷]ダイアログ ボックス
- [ページ設定]ダイアログ ボックス

- [ビューポート]ツールバー ドロップダウン リスト
- シート セット マネージャ
- レイアウト ウィザード
- [プロパティ]パレット

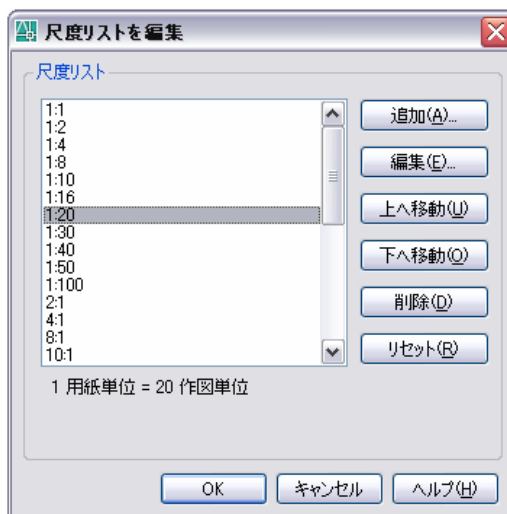


図 10. [尺度リストを編集]ダイアログ ボックス

### 数値計算を実行する

AutoCAD で作成するような技術図面では、数学的な計算が必要となる場合がよくあります。これまでは、これらの計算を実行するために、普通の計算機、または AutoCAD のパワフルでも少々面倒なコマンドラインの計算機能が使用されてきました。どちらを使用する場合でも、設計作業の手を休める必要があるため、面倒で時間がかかっていました。

AutoCAD 2006 から追加された新しいクイック計算機能では、組み込みのグラフィカルな 3D 計算機を使用して、設計に集中することができます。クイック計算機能は、QUICKCALC コマンドや、[プロパティ]パレットの数値入力フィールドからアクセスできるため、必要な時に必要な場所で使用できます。

4 つの折りたたみ可能なパネルで、さまざまな処理が実行できます。

- [数値パッド]では、普通の計算機と同様なインターフェースを使って値を入力して基本的な数学的演算を実行できます。
- [指数表記]パネルでは、科学計算機や技術用計算機に見られるような高度な機能を使用できます。
- [単位変換]パネルでは、メートル単位とインペリアル単位を相互に変換することができます。
- [変数]パネルでは、AutoCAD の図面とセッション全体で一貫するグローバル定数とグローバル変数を定義できます。

値は、入力するか図面内のオブジェクトから直接取得できます。クイック計算機能で計算を実行すると、値が自動的に履歴リストに保存されるため、次の計算でも再利用することができます。計算結果の値は、コマンドラインに貼り付けたり、[プロパティ]ウィンドウに反映させることができます。



図 11. クイック計算

## 図面に注釈を追加する

注釈は、ほとんどの図面において重要です。図面の注釈には、文字、寸法、ブロック属性、表などさまざまな AutoCAD オブジェクトを使うことができます。したがって、これまでもほぼ思い通りの外観で注釈を表すことができました。しかし、その作業はたくさんの時間を必要とし、またミスが発生しやすいものでもありました。

AutoCAD 2006 では、文字、寸法、ブロック属性、表のいずれを使用する場合でも簡単に図面に注釈をつけることができます。インプレイス テキスト編集、簡条書き記号や番号付けの自動化、高度な寸法記入、属性書き出しと表のより安定したサポートが提供されています。

### インプレイス テキスト編集を行う

AutoCAD のこれまでのバージョンでは、テキストの作成と編集には試行錯誤が必要な場合がありました。文字サイズは、図面エディタで判読しやすくなるよう、自動的に調整されていました。ただし、そのために図面の他の部分に対して文字のサイズや場所が適切かどうか判断することが難しくなっていました。つまり、テキスト エディタを終了するまで、テキストが実際にどのように表示されるか分かりませんでした。

AutoCAD 2006 のインプレイス テキスト編集では、テキスト編集時に推測は一切必要なくなります。インプレイス編集は、ダイナミック文字記入とマルチ テキストの両方で使用できます。さらに、新しい[オプション]ツールバーや右クリック メニューのオプションから、マルチ ライン テキスト編集の追加オプションにアクセスすることも可能です。[文字の書式設定]ツールバー、オプション、ルーラの表示/非表示を選択できます。また、テキストの背景を不透明にすることもできます。

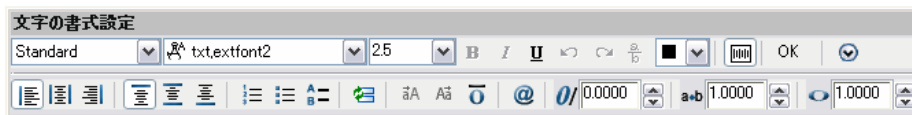


図 12. [文字の書式設定]ツールバー

### 番号付きリスト、簡条書き記号付きリストを作成する

ほとんどの図面で欠かせない注記には、通常は番号または文字が割り振られています。場合によっては、サブ注記(文字や番号、または簡条書き記号つきリスト)も含まれることがあります。従来の AutoCAD では、このようなリストの作成は困難でした。各注記の番号や文字を手動で入力した後で、注記を追加したり削除したりすると、すべての番号や文字を割り振りなおす必要がありました。簡条書きリストを作成する場合は、適切な簡条書き記号を選択して、それを表示するすべての行に挿入またはコピーする必要がありました。

AutoCAD 2006 では、直感的な操作で簡単に注記リストを作成できます。[文字の書式設定]ツールバーまたは右クリック メニューの[簡条書きとリスト]メニューから、文字、段落番号、簡条書き記号付きのリストを作成できます。「A。」や「1.」のように英数字の後にピリオドを入力すると、「自動リスト」オプションによってテキストが自動的に文字または番号付きのリストに変換されます。同様に、「-」や「\*」のような特殊文字を入力すると、その文字を簡条書き記号として使用したリストが自動的に作成され、次の行にも適用されます。[段落番号オン]オプションが有効になっていると、番号または文字が割り振られた項目が自動的に順番どおりに作成されます。リストから項目を削除すると、残りの番号または文字が自動的に更新されます。

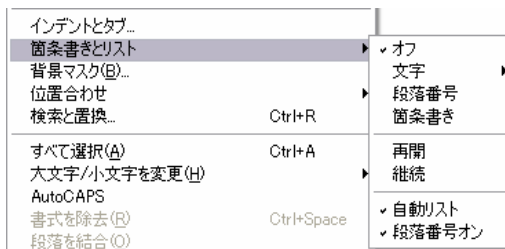


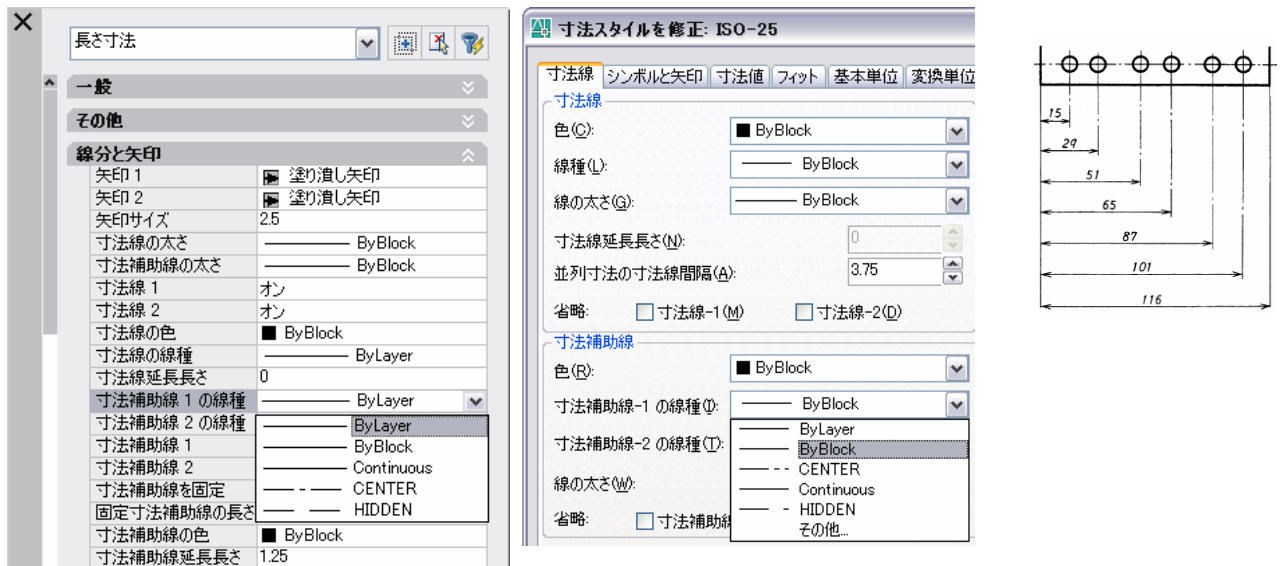
図 13. [簡条書きとリスト]メニュー

### 寸法引き出し線の線種を変更する

作成する図面の種類によっては、寸法オブジェクトに異なる線種を使用する必要があります。これまで、寸法を分解して各線分の線種プロパティを変更しました。しかし、分解後の寸法には関連性が無くなるため、トラブルの元になることもありました。

AutoCAD 2006 の新しい寸法機能では、寸法オブジェクトの線種を、分解することなく変更することができます。[寸法スタイル]ダイアログ ボックスと[プロパティ]ウィンドウを使用して、異なる寸法と寸法補助線(引き出し線)の線種を選択できます。

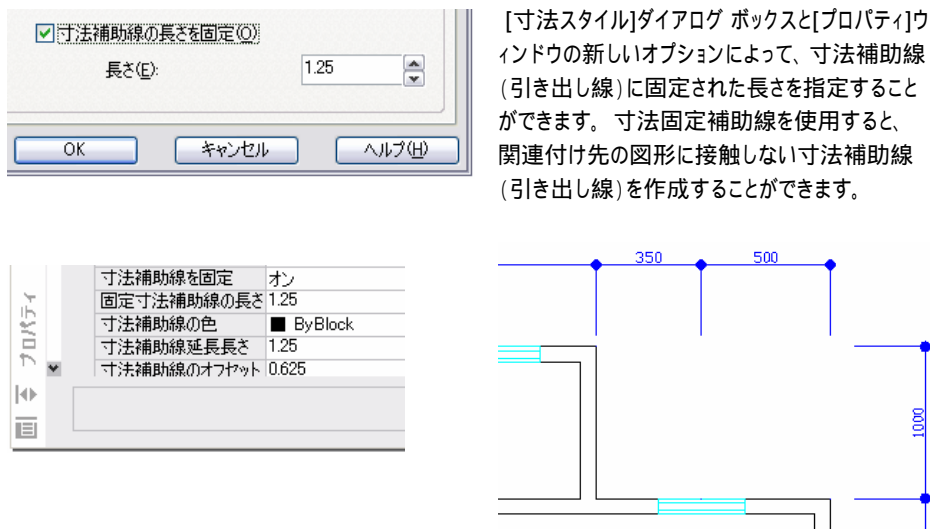
図 14. 寸法図形の線種



### 寸法引き出し線の長さを変更する

図面内のさまざまな場所にある寸法に、一定の長さの寸法補助線(引き出し線)を追加する必要があります。寸法作成後に手で寸法補助線(引き出し線)の原点を編集することはできませんが、これは手間のかかる作業でした。

図 15. 長さが固定された寸法補助線(引き出し線)



[寸法スタイル]ダイアログ ボックスと[プロパティ]ウィンドウの新しいオプションによって、寸法補助線(引き出し線)に固定された長さを指定することができます。寸法固定補助線を使用すると、関連付け先の図形に接触しない寸法補助線(引き出し線)を作成することができます。

### 円弧の長さ寸法を記入する

従来の AutoCAD では、円弧の半径、直径、角度、弦の長さなど、さまざまな円弧の寸法を作成することができました。しかし、円弧の長さを作成することはできませんでした。

AutoCAD 2006 では、弧長寸法を記入できるようになりました。標準の寸法メニューとツールバーに、これを実行するための DIMARC コマンドが追加されました。[寸法スタイル]ダイアログ ボックスには、弧長寸法を他の寸法と区別するための弧長シンボルを作成できるオプションが追加されました。

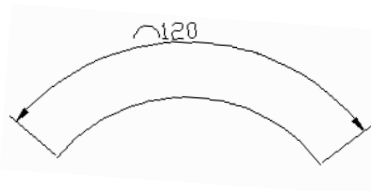
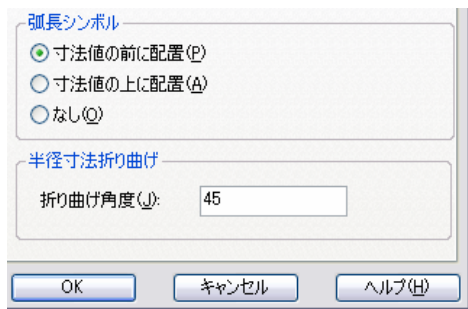


図 16. 弧長寸法

### 折り曲げ寸法で大きな半径寸法を記入する

円弧に適切な寸法を記入するためには、半径寸法が円弧の中心を通過していなければなりません。これまで、円弧の半径が大きい場合、たいていは円弧の中心がシートの範囲外にあるため、半径寸法を分解して手で編集する必要がありました。

AutoCAD 2006 では、大きな曲線には折り曲げ角度を指定して寸法を分解することなく適切に記入できるようになりました。折り曲げ角度は、[寸法スタイル]ダイアログ ボックスで指定できます。

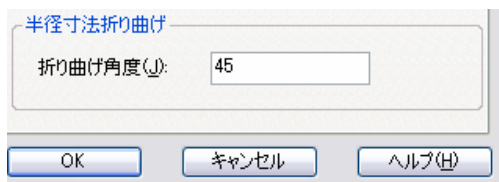


図 17. 半径寸法折り曲げ

### 寸法矢印を反転させる

[寸法スタイル]ダイアログボックスには、寸法線分の矢印に最低限の設定を適用するオプションがあります。たとえば、十分なスペースがない場合に、両方の矢印を省略したり寸法補助線(引き出し線)の外に配置したりすることができます。しかし、これまでは、各矢印に個別の設定を適用することができず、また寸法配置が完了するまでどのように表示されるか確認できませんでした。

寸法の右クリックメニューに追加された新しい[矢印を反転]オプションによって、寸法線の矢印の方向を個々に反転させることができます。単に反転させる矢印のそばの寸法を選択し、右クリックメニューから[矢印を反転]を選択します。

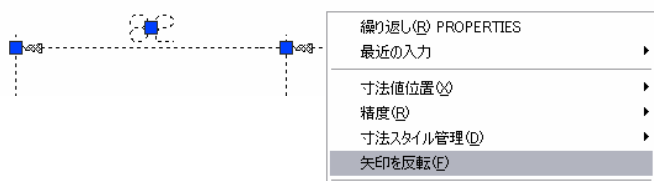


図 18. 矢印を反転

### 部材の初期長さを表記する

製造業界の図面では、オブジェクトの最初の長さを示すために特殊なシンボルを使用する必要があります。

AutoCAD 2006 では、最初の長さを示すシンボルが追加できるようになりました。最初の長さのシンボル(Q)は、マルチテキストエディタの右クリックメニューの[シンボル]リストから選択できます。

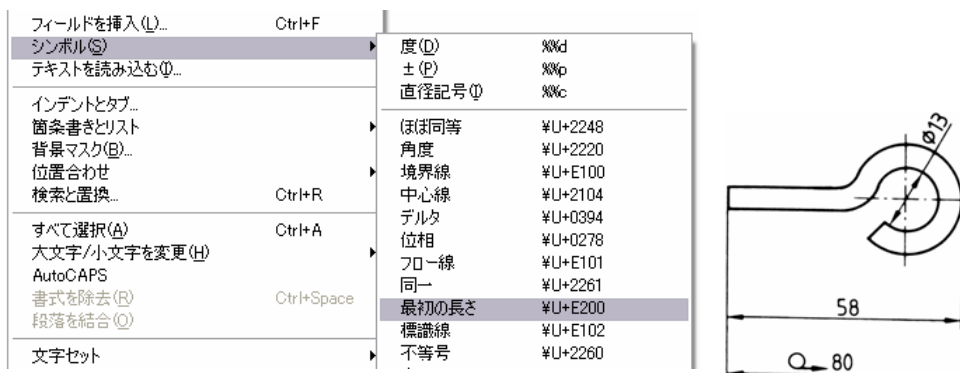


図 19. 最初の長さシンボル

### ブロック属性データを表に書き出す

図面によっては、集計表、部品リストなどのデータを示すために表を使用する場合があります。これらの表によって、図面の内容の概要と、設計に使用されている各コンポーネントが示されます。これまで、このような表は AutoCAD で手動で作成、編集、更新するか、外部ファイルにデータを書き出して Excel

などの別のアプリケーションで開いて編集し、OLE オブジェクトまたは表オブジェクトとして AutoCAD に読み込む必要がありました。

AutoCAD 2006 では、この処理が非常に簡略化されました。属性書き出しウィザードに、より柔軟性が高く高度な設定が追加されました。新しいデータソースオプションによって、シートセット全体から属性データを書き出し、分析対象とするブロックにさらに詳細な設定を適用できるようになりました。

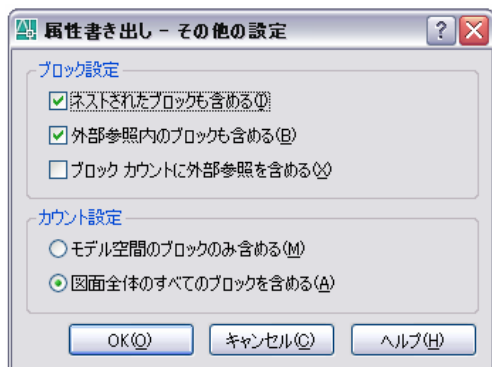


図 20. [属性書き出し - その他の設定]ダイアログボックス



[属性書き出し]ウィザードに不要なブロックやプロパティが表示されないように、ブロック属性を持つブロックだけを選択したり、属性データだけを選択できるようになりました(一般的なブロック プロパティすべてではなく)。また、選択したブロックのプレビュー イメージを現在の図面上に表示して確認することもできます。

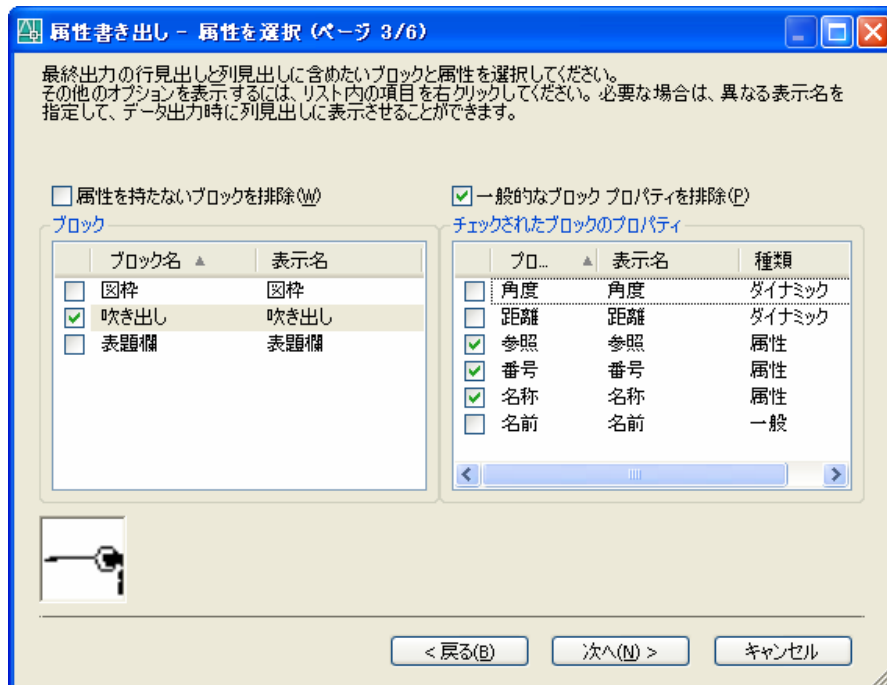


図 21. [属性書き出し - 属性を選択]ダイアログ ボックス

出力を確定する前に、データのプレビューを表示して、表の要素の配置を変えたり、列の見出しをクリックしてデータを並べ替えたりすることができます。表の編集が完了したら、外部ファイル、AutoCAD の表、またその両方として書き出すことができます。

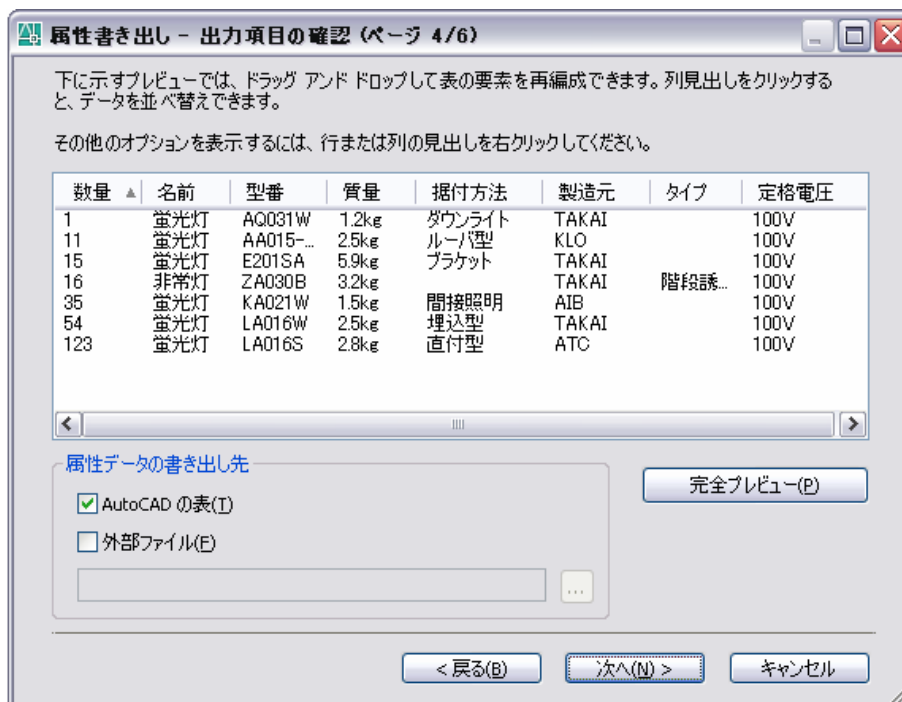


図 22. [属性書き出し - 出力項目の確認]ダイアログ ボックス

AutoCAD の表としてデータを書き出して、手動で表を作成した場合と同様に事前定義された表スタイルを利用することができます。しかも、手動で作成した表とは異なり、表内のテキストを属性データにリンクすることができます。属性データを変更した場合は、表を最新の情報に更新することができます。

図 23. 表として書き出されたテーブル

ドアリスト						
数量	幅	高さ	スタイル	型番	製造元	価格
2	800	2000-2500	南欧風	FL 301	TRU	300,000
4	955	2000-2500	ベーシック	BF 5081	TRU	200,000

#### 表に計算式を埋め込む

技術図面では、データを計算して、その結果を図面内に表のような書式で表示する場合があります。計算は、スプレッドシートなどの外部ファイル内で実行できましたが、その場合、データを 2ヶ所で維持する必要が生じました。どちらか一方で行ったデータへの変更が、もう一方に反映し忘れてしまう場合もありました。

AutoCAD 2006 では表機能が改善され、AutoCAD 内で一般的なデータ計算ができるため、外部スプレッドシートでのデータ更新の必要性が最小限に押さえられます。合計、平均、個数などを計算する簡単な数値演算を実行したり、加算、減算、乗算、除算、累乗計算などを組み合わせた数式を作成したりすることができます。また、表のセルに等号(=)を入力して、他のセルを指定して得られる計算結果を動的に表示することもできます。表のデータには、セル値、フィールド、数値、数学演算子を組み合わせで使用できます。

図 24. 表のデータの計算

	A	B	C	D	E	F	
1	IECC ビルディング 室内照明計算表						
2	延床面積			許容電力/㎡	=	延床面積総電力	
3	4808		X	2.1	=	10096.8	
4							
5	照明器具タイプ	数量		電力		照明電力	
6	A	38	X	70	=	=B6*D6	
7	AA	11	X	70	=	770	
8	B	10	X	75	=	750	
9	C	171	X	30	=	5130	
10	D	1	X	10	=	10	
11	X	2	X	5	=	10	
12	X1	1	X	5	=	5	
13	総照明電力						9335
14							
15	総照明電力			延床面積	=	照明電力/㎡	
16	9335		/	4808	=	1.941556	



## ハッチングする

ハッチングは多くの AutoCAD 図面で使用されます。AutoCAD 2006 では、ハッチングを非常に効率よく作成できるようになりました。[境界ハッチングと塗り潰し]ダイアログ ボックス([ハッチングとグラデーション]に名称変更)と[ハッチング編集]ダイアログ ボックスが、合理化されました。これらのダイアログ ボックスには、より柔軟性の高いオプションが追加され、より詳細なオプションにアクセスするための展開可能なパネルが適用されました。

図 25. 展開可能な[ハッチングとグラデーション]ダイアログ ボックス



## ハッチの原点を再定義する

AutoCAD で作成するハッチングでは、ハッチング パターンの外観が、境界の場所と UCS 原点の場所によって左右されました。この既定値の動作では、結果が予測不可能で、思い通りにならない場合が多くありました。ハッチングの外観は、境界のコーナーなど、パターンの原点となる特定の点を指定して変えることができます。しかし、AutoCAD 2006 以前のバージョンでは、この操作は面倒で時間がかかるものでした。

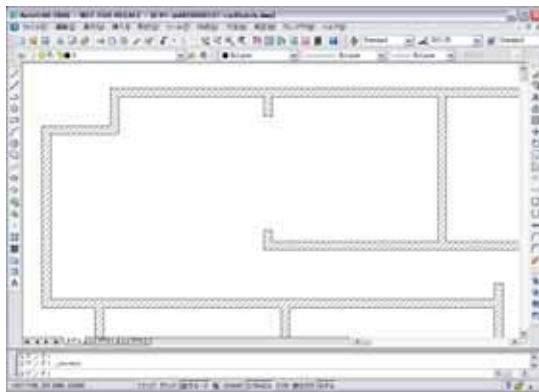
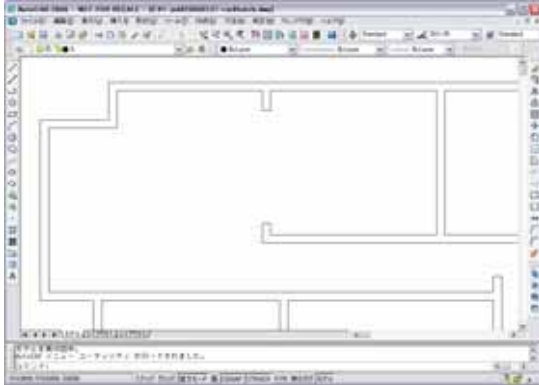
AutoCAD 2006 では、ハッチングの原点をハッチングの作成中や編集集中に簡単に指定できるようになりました。[ハッチングとグラデーション]ダイアログ ボックスと[ハッチング編集]ダイアログ ボックスの両方に、新しく[ハッチング原点]が追加されました。現在の原点を使用するか、新しい原点を図面をクリックして設定するか、境界範囲を使用するかを選べます。これらのオプションのいずれかを、その後のハッチング処理の時の既定値として指定することもできます。

図 26. ハッチング原点の指定前と指定後



### ハッチング領域の選択

これまでの AutoCAD では、ハッチング領域を指定するときにある程度の制約がありました。境界内で 1 点をクリックして領域を指定することができましたが、その場合、領域全体が画面に表示されていなければなりません。したがって、境界全体が表示されるようにズーム、画面移動するか、境界をより小さなセクションに分割する必要がありました。また、ハッチングを作成したあとで、異なるオブジェクトに基づく境界を再定義することは難しく、そのハッチングを消去してもう一度やり直す必要がよくありました。



AutoCAD 2006 では、ハッチングの処理が非常に柔軟になり、ハッチング境界の調整に必要な時間が短縮されます。表示領域に収まらない境界内でもハッチングを作成できるようになりました。たとえば、フロアプランで、1 つの部屋にズームした状態でも、全体の壁にハッチングを作成することができます。

図 27. 表示領域を超えたハッチング境界

新しい境界オプションでは、現在の境界の選択内容を表示するだけでなく、境界を追加、削除、再作成することができます。



図 28. 境界オプション

### 複数のハッチング オブジェクトを作成する

同じハッチング プロパティを図面内の複数の領域に適用する場合は、それらのすべての領域に対してハッチングを作成するため、1 つのハッチングオブジェクトとなります。場合によっては、このような結果が望ましくないことがあります。たとえば独立したハッチングの作成では、コンクリートのハッチングすべてを 1 つのオブジェクトとして作成すると、1 つの詳細のハッチングを消去したり変更したりしたとき、他の詳細のハッチングにも影響してしまいます。各詳細を個々に独立させるためには、コンクリートのハッチングを 2 回作成する必要がありました。

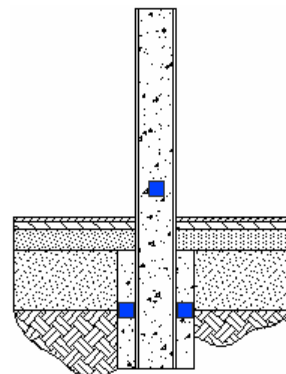
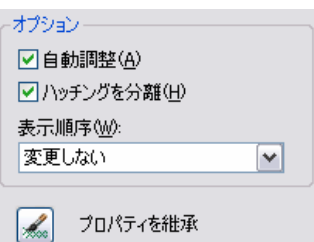


図 29. 独立したハッチングの作成



### [ハッチングと塗り潰し]ダイアログ

ボックスの新しいオプションでは、1 回のハッチング作成操作で、複数の異なるハッチング オブジェクトを作成することができます。つまり、1 度の操作で、複数のハッチング操作を行った場合と同じ結果が得られます。

## ハッチング面積を確認する

ハッチングを境界に適用する場合、同時に境界内の面積も測定したいことがあります。たとえば、1つのサイトプラン内にある異なる領域を一度にハッチングして視覚的効果を適用する場合、それらの領域の面積を知っている必要があります。AutoCAD 2006 より前のバージョンでは、これを行うためには、ハッチングの作成と面積の計算という2つの独立した操作を実行する必要がありました。さらに、面積の計算は簡単ではありませんでした。

AutoCAD 2006 では、ハッチングされたスペースの面積の計算が非常に簡単になりました。[プロパティ]ウィンドウでは、新しく追加された[面積]プロパティにハッチングの面積が表示されます。複数のハッチング オブジェクトを選択した場合は、その面積の合計が表示されます。

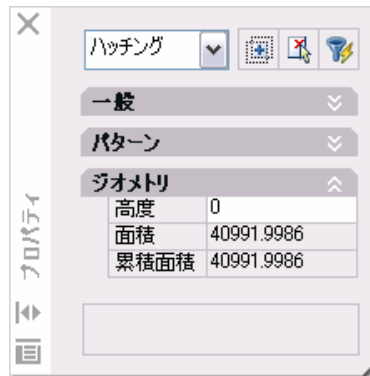


図 30. ハッチング面積

## 作図と編集

AutoCAD では、あらゆる形状とサイズの図形を作図、編集するための多数のコマンドが用意されています。AutoCAD 2006 では、これらのコマンドの多くが、一般的な作図/編集タスクを合理化するために改善されました。

### 一般的な編集コマンドへの機能追加

統一性を欠くコマンド操作は、作業の進行を妨げ、進捗が遅くなります。たいていのユーザは、1日の作業において一般的な編集コマンドを繰り返し実行するため、効率よく操作しないと生産性が大幅に低下します。

AutoCAD 2006 では、一般的な AutoCAD の編集コマンドの操作性が統一化され、効率的になりました。

- COPY コマンドに、「元に戻す」オプションが追加され、1回のコピー操作で複数のコピー オブジェクトを元に戻すことができるようになりました。
- COPY、MOVE、STRETCH コマンドでは、一番最近の内容が現在の編集セッション中維持されます。
- STRETCH コマンドのオブジェクトの選択オプションがより柔軟で統一性のあるものになりました。オブジェクトをクリックするなどの標準の方法で選択されたオブジェクトは、自動的に MOVE 操作の対象と見なされます。さらに、1回の STRETCH 操作において複数の交差選択を適用できるため、異なる選択セット内のオブジェクトを同時にストレッチできます。
- ROTATE コマンドと SCALE コマンドは、コピー オプションが追加されたため、オブジェクトを回転したり尺度変更すると同時にコピーすることができます。一番最近の回転角度や尺度の値が現在の編集セッションを通して維持されます。また、改善された参照オプションによって、2点を選択して新しい角度や尺度を指定することができます。さらに、参照点として基点以外を選択できるようになりました。
- OFFSET コマンドでは、コマンドを終了せずにオブジェクトを複数回オフセットできるようになりました。また、元に戻すオプション、自動的にソース オブジェクトを削除するオプション、新しいオブジェクトを現在の画層に作成するかソース オブジェクトと同じ画層に配置するかを選択するオプションが追加されました。
- CHAMFER コマンドと FILLET コマンドに、元に戻すオプションが追加され、面取りやフィレット操作を各コマンド内で元に戻せるようになりました。また、[Shift]キーを使用して2つの線分を選択することで、距離ゼロの面取りや半径ゼロのフィレットを手早く作成できるようになりました。

- TRIM コマンドと EXTEND コマンドで、高度なオブジェクト選択オプションにアクセスできるようになりました。既定値の[すべて選択]オプションは、表示されているすべての図形を切断エッジまたは境界エッジとして手早く選択できます。また、トリムまたは延長するオブジェクトを選択するときには、[フェンス]オプションと[交差]オプションを使用できるようになりました。[交差]オプションを使用するとき、交差ウィンドウの最初の選択ポイントによって、選択オブジェクトがどのようにトリムまたは延長されるかが決定されます。
- RECTANGLE コマンドに、面積と回転のオプションが追加されました。[面積]オプションを使用すると、面積と1辺の長さを指定して長方形を作成することができます。[回転]オプションを使用すると、作成プロセス中に回転角度を入力するか2点を選択して長方形を回転させることができます。

### 類似したオブジェクトを結合する

図面の編集プロセスでは、時々余分なオブジェクトが生成され、図面のサイズが大きくなったり分かりにくくなったりする場合があります。さらに、不要なオブジェクトを削除したりそれを編集する作業には、時間がかかりました。

AutoCAD 2006 で新しく追加された JOIN コマンドでは、類似したオブジェクトの個々のセグメントを1つのオブジェクトに結合することで、ファイルサイズを縮小して図面の品質を高めることができます。JOIN 機能は、ポリライン、線分、円弧、楕円弧、スプラインなどに適用できます。

同一線上の線分セグメントを、簡単に1つの線分に結合できます。結合する線分どうしは、同一線上にあれば、重なりあったり、隙間があったり、端点と同じであってもかまいません。同じ円軌跡上にある複数の円弧セグメントや、同じ楕円軌跡上にある複数の楕円弧セグメントなどにも、同じ機能を適用できます。



JOIN コマンドによって、同じ平面上にあって共通の端点を持つ複数のスプラインを結合できます。また、このコマンドで円弧や楕円弧を閉じて自動的に円や楕円に変換することもできます。

### マルチラインを作成、編集する

AutoCAD では、マルチライン オブジェクトによって平行な線分を持つオブジェクトを作成できます。マルチライン オブジェクトは、フロー プランなどの図面で特に有用ですが、これらのオブジェクトを作成したり編集したりする作業は、少々特殊で面倒です。

AutoCAD 2006 では、マルチライン オブジェクトをより簡単に自由に使用できるようになりました。[マルチライン スタイル]ダイアログ ボックスと[マルチライン編集ツール]ダイアログ ボックスは改善され、より直感的なユーザ インタフェースになりました。さらに、マルチライン オブジェクトを、TRIM コマンドと EXTEND コマンドで編集できるようになりました。

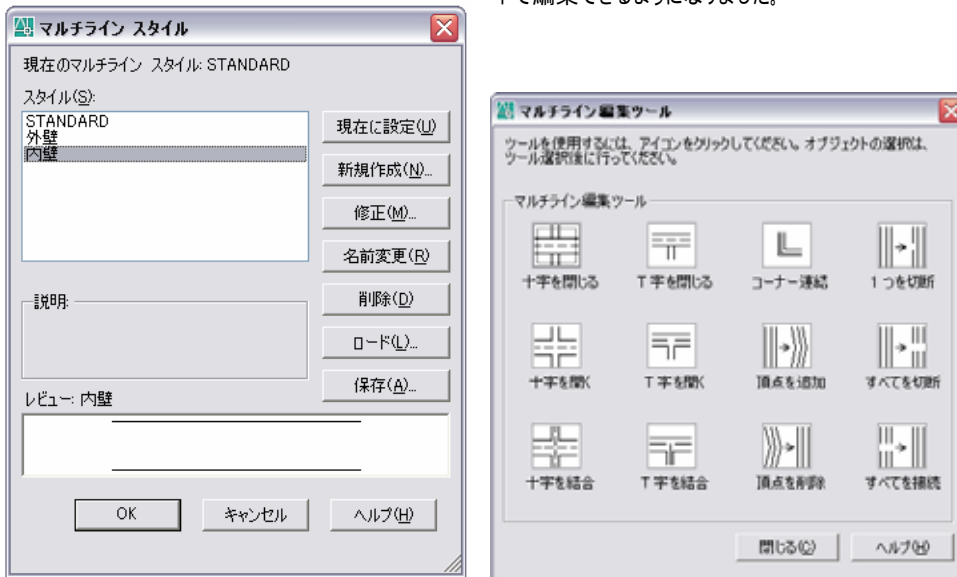


図 31. 重なったり、すきまがあったり、端点と同じである同一線上の線分セグメント

図 32. 新しくなったマルチライン関連のダイアログ ボックス

### **3D 図形のオブジェクト スナップに Z 値を適用する**

新しい OSNAPZ 変数によって、OSNAP 点の Z 値にフィルタを適用したり、現在の高度に置き換えたりすることができます。OSNAPZ を 1 に設定すると、取得されたすべての OSNAP の Z 値を現在の高度または現在の UCS の Z 値に置き換えたりすることができます。

# 管理する

## ダイナミックブロックを定義する

各図面で必要とされる形状やサイズのブロックをすべてライブラリに含めようとする、同一シンボルのあらゆるバリエーションを含む、何千あるいは何万ものブロック ライブラリが作成されることになります。このように大きなブロック ライブラリでは、必要なブロックを見つけにくくなります。

AutoCAD 2006 では、ダイナミックブロックを使用することで、ブロック ライブラリのサイズを大幅に縮小できます。個々のブロック 図形が編集可能になったため、形状やサイズが違うシンボルを逐一作成する必要がなくなりました。

新しいブロック エディタでは、ブロック定義を新規作成したり、既存のブロックを編集することができます。ブロック エディタを開くには、[ブロック エディタ]ダイアログ ボックス、ブロックを選択した状態での右クリックメニュー、BEDIT コマンドなど、いくつかの方法があります。

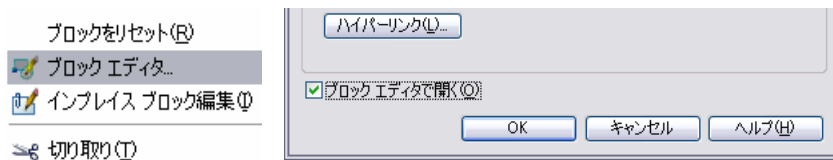


図 33. ブロック エディタへのアクセス

ブロック エディタでは、AutoCAD の一般的な作図/編集機能を使用して、ブロック定義の図形を作成、変更できます。さらに、パラメータとアクションをブロック図形に適用できるツールが表示された[ブロック オーサリング パレット]があります。

ここにも簡単にダイナミックブロックの作り方を紹介しますが、別冊子「ダイナミックブロックの作り方」を参照の上、あなたも自分でダイナミックブロックを作ってみてください。

「ダイナミックブロックの作り方」の小冊子は Web の資料請求ページからお申し込みいただけます。

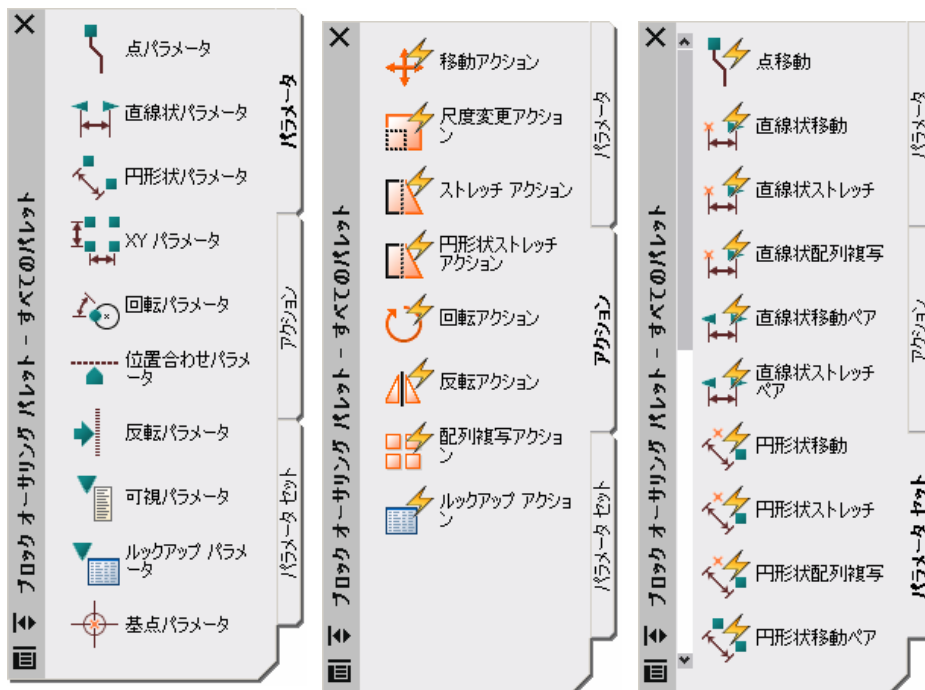


図 34. ブロック オーサリング パレット



### パラメータを定義する

[ブロック オーサリング パレット]の[パラメータ]タブに表示されるパラメータは、ブロック 図形の動作の寸法のようなものです。たとえば、直線状パラメータをドア ブロックに追加して、ドア幅の動作に適用することができます。パラメータは、関連プロパティを持つオブジェクトで、[プロパティ]ウィンドウで編集できます。たとえば、直線状パラメータのプロパティを編集して、ドア幅が 500 ~ 900 ミリの範囲で 50 ミリの増分で変更できるように設定することができます。

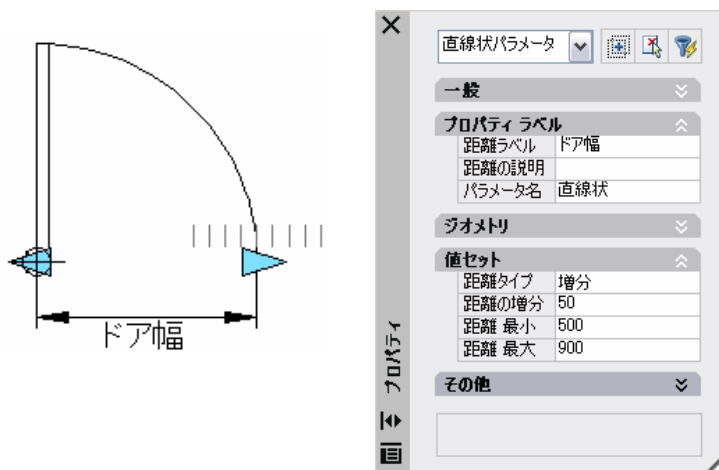


図 35. 直線状パラメータ

### アクションを追加する

アクションは、ブロック図形の挿入、編集時に図形を変更するもので、[ブロック オーサリング パレット]の[アクション]タブで設定できます。たとえば、ドア ブロックを幅を変更して挿入する場合、「ドア幅」パラメータに[ストレッチ アクション]を適用する必要があります。1 つのパラメータには、複数のアクションを適用したり、[プロパティ]ウィンドウでアクションのプロパティを調整することができます。ドア幅のグリップをストレッチする場合、ドア ブロックを構成するすべてのオブジェクトを適切に調整する必要があります。たとえば、ドア スイングを示す円弧の尺度を設定し、ドアそのものを示す 2 本の線分をストレッチするとします。この場合、尺度変更アクションとストレッチ アクションの両方を同じドア幅のグリップに追加します。その後、2 本の線分がドア幅パラメータで、90 度のオフセットでストレッチされるようにストレッチ アクションのプロパティを編集します。

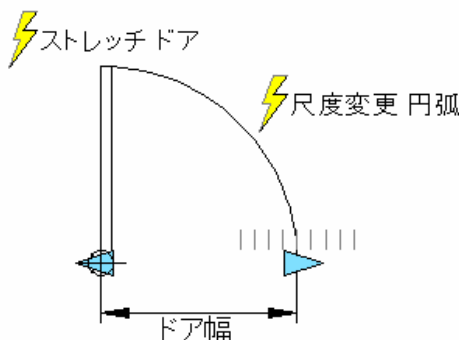
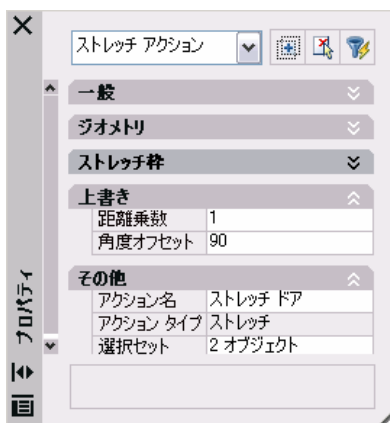
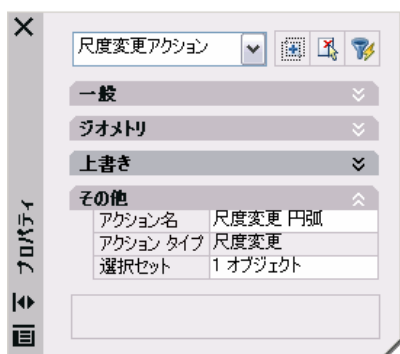


図 36. ストレッチ アクションと尺度変更アクション



## ユーザ インタフェースをカスタマイズする

AutoCAD では、これまでもユーザ インタフェースを自在にカスタマイズすることができました。AutoCAD のメニュー、ツールバー、コマンド ラインは、各ユーザの作業フローに合うように設定することができました。ただし、そのようなカスタマイズ プロセスは必ずしも簡単であるとはいえませんでした。その作業には、行おうとしているカスタマイズに関係するいろいろなファイルやツールについての知識が必要とされました。

AutoCAD 2006 では、ユーザ インタフェース コンポーネントを 1 ヶ所で作成、編集できるツールが提供されているため、ユーザ インタフェースのカスタマイズが簡単になりました。従来のメニュー ファイル(MNU、MNS、MNC)に代わって、XML ベースの CUI (Custom User Interface)ファイル、また従来の[カスタマイズ]ダイアログ ボックスに代わって、パワフルな[ユーザ インタフェースをカスタマイズ]ダイアログ ボックスが使用されます。また、[ユーザ インタフェースをカスタマイズ]ダイアログ ボックスには、[転送]と[カスタマイズ]という 2 つのタブがあります。

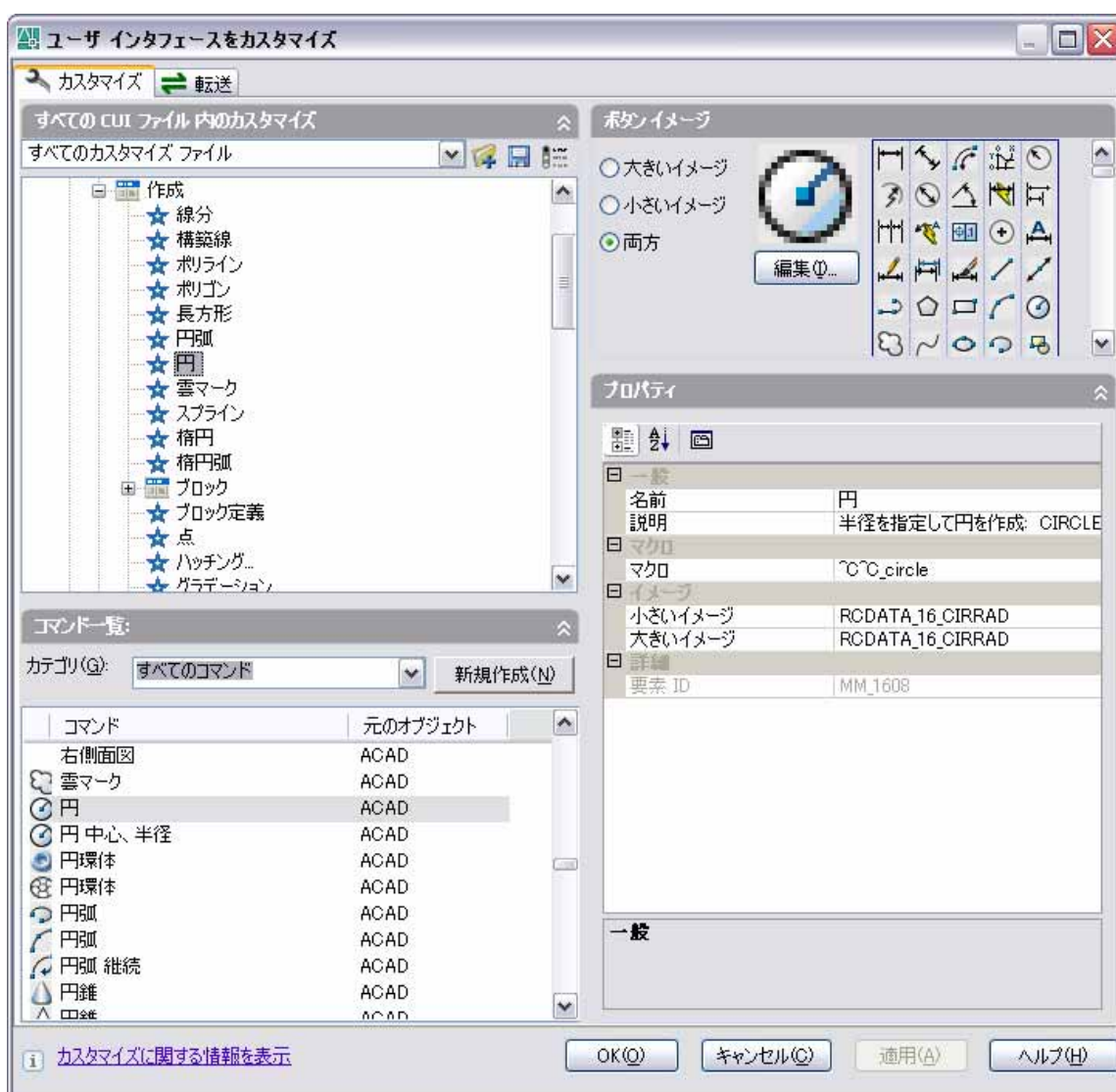


図 37. [ユーザ インタフェースをカスタマイズ]ダイアログ ボックス



「[転送]」タブでは、既存の MNU ベースのカスタマイズを新しい CUI ベースのカスタマイズにマイグレートできます。CUI 読み込み機能で開いたダイアログでは、ダイアログ ボックスの右側で転送する UI 要素を含むファイルを選択し、左側で UI 要素の転送先となるファイルを指定します。

[カスタマイズ]タブでは、ツールバーやメニューなどのカスタマイズ可能なユーザ インタフェース コンポーネントをすべて表示できます。ツリー ビューでは、UI コンポーネントを作成、名前変更、削除できます。[コマンド一覧]には、追加できるコマンド(カスタム マクロを含む)がすべて表示されます。[コマンド一覧]でコマンドを選択すると、それに関連付けられたボタン イメージとプロパティを表示、編集できます。[コマンド一覧]のコマンドを使用して、さまざまな UI コンポーネントを構成できます。

AutoCAD 2006 では、メニューやツールバーなどの一般的な UI コンポーネントだけでなく、より優れた UI 機能が新しく追加され、作業プロセスの合理化に役立ちます。

### 設定を一時的に上書きする

これまでの AutoCAD では、カスタマイズ可能なアクセラレータキーを使用して、キーボードショートカットによるコマンドの起動や設定の切り換えを実行できるものがありました。アクセラレータ キーを使用してモードを切り換えると、再度設定し直すまでそのモードが維持されますが、場合によっては、当面の操作のために一時的に設定を変更できれば便利ことがあります。

AutoCAD 2006 の新しい[一時上書きキー]機能では、特定のキーの組み合わせを押している間だけ、特定の設定を上書きすることができます。一時上書き機能によって変更された設定は、従来のアクセラレータ キーとは異なり、キーを離すと自動的に元の設定に戻ります。たとえば、一時上書きキーを使用すると、まず ORTHO モードをオフにした状態で線分を描き、次に[Shift]キーを押しながら線分セグメントを直交の位置に拘束できます。[Shift]キーから指を離すと、ORTHO モードが元の状態に戻ります。

AutoCAD 2006 では、一時上書きに使用できる既定値のキーの組み合わせがあらかじめいくつか用意されています。[ユーザ インタフェースをカスタマイズ]ダイアログ ボックスでは、これらのキーの組み合わせを変更したり、新しく作ることができます。

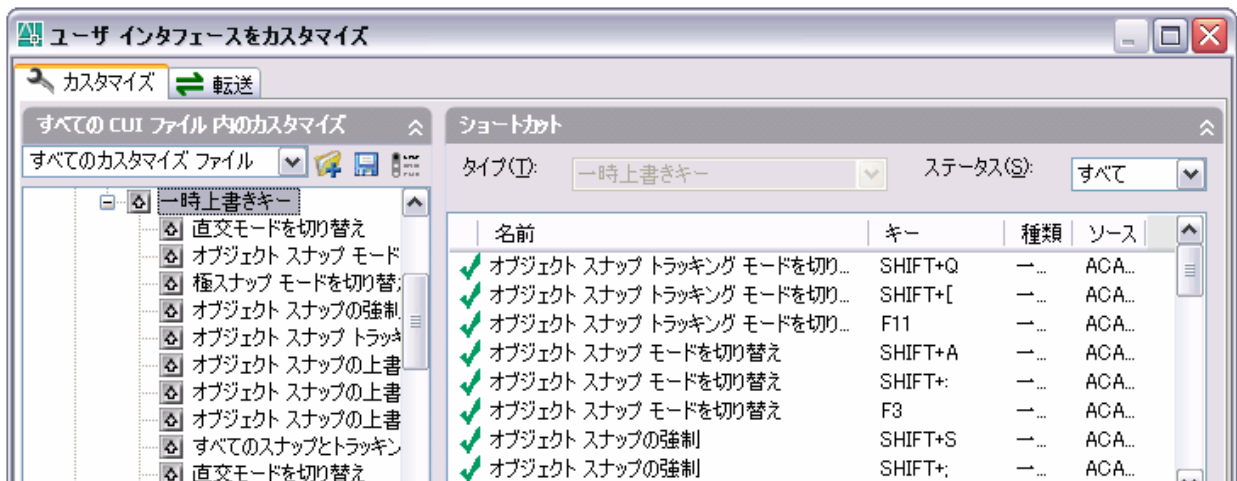


図 38. 一時上書きキー

### ツール パレットをカスタマイズする

ツール パレットは簡単に作成、カスタマイズできます。ツール パレットには、小さな画面領域に、頻繁に使用するツールを多数保存して、簡単にアクセスできるようにできます。ツール パレットは、タスク ベースのインタフェースを作成する場合に有益であり、さらにひと工夫すればさらに役立つものになります。

AutoCAD 2006 では、ツール パレットのツールをより効率よく整理、説明できるようになりました。右クリック メニュー オプションを使用して、ツール パレットに区切りや文字を追加して、タスク ベースのプロセスで使いやすくすることができます。一般的な AutoCAD タスクに必要なツールばかりを一極化、整理、説明することで、ツールが使いやすくなるため時間が節約され、効率アップにつながります。

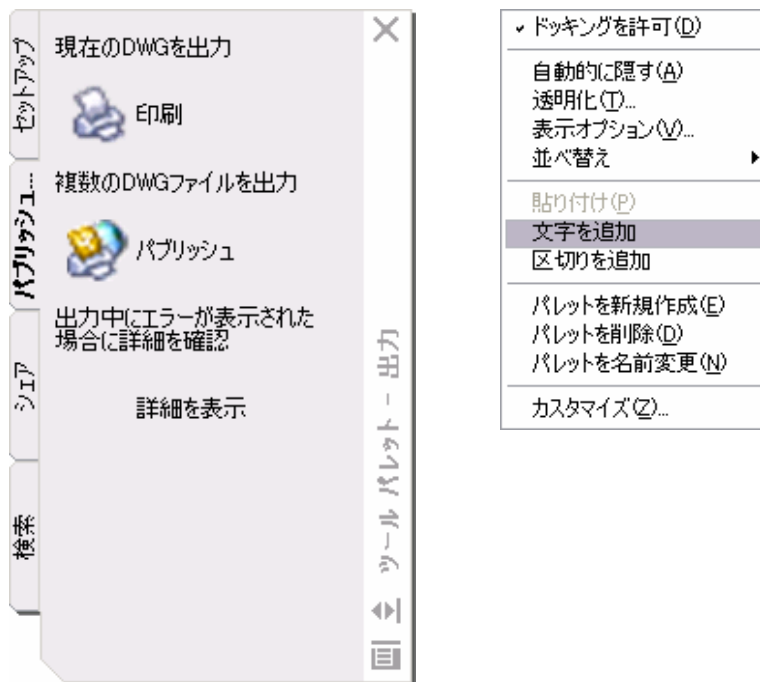


図 39. 拡張されたツールパレット

### ワークスペースを活用する

AutoCAD では、ありとあらゆる設計に関する問題を解決するパワフルな設計ツールが幅広く提供されています。しかし、非常に多機能であるために、1 つのタスクを完了するために多くの労力が必要となる場合があります。特に初心者ユーザは、数々のメニュー、ツールバー、ダイアログ、パレットに圧倒されるかもしれません。ベテラン ユーザの場合は、必要な機能に到達するまでに、当面の作業には関係ない機能を起動しなければならない不便さをお感じかもしれません。

AutoCAD 2006 のワークスペースでは、これらの問題を解消するために、作業内容に応じてユーザインターフェイスの設定が変えられるようになりました。ツールバー、メニュー、ツールパレットの表示、またコマンドラインや[プロパティ]パレットなどのアプリケーション ウィンドウの表示を制御できるようになりました。ユーザ インターフェイス コンポーネントを、各ユーザの作業フローに合うように追加、削除、再編成することができます。たとえば、次のタスクに移るとき、新しい[ワークスペース]ツールバーから適切なワークスペースを選択して、AutoCAD ユーザ インターフェイスを変更することができます。

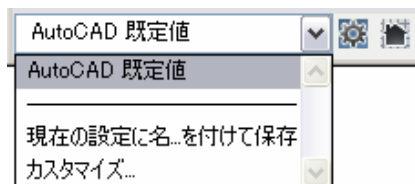


図 40. [ワークスペース]ツールバー

### ツールバーとウィンドウをロックする

ツールバーとウィンドウは、思い通りに配置できる反面、思いに反して移動してしまうこともありました。

AutoCAD 2006 では、ツールバーやウィンドウを知らないうちに移動しないよう特定の場所にロックすることができます。ロック状態は、ステータスバーの新しいアイコンによって確認でき、このアイコンをクリックまたは右クリックしてロックメニューにアクセスすることができます。また、[Ctrl]キーを押したままツールバーまたはウィンドウを移動して、ロック状態を一時解除することができます。

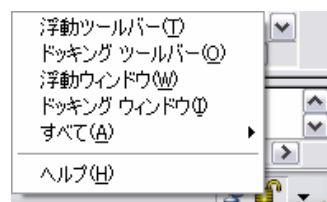


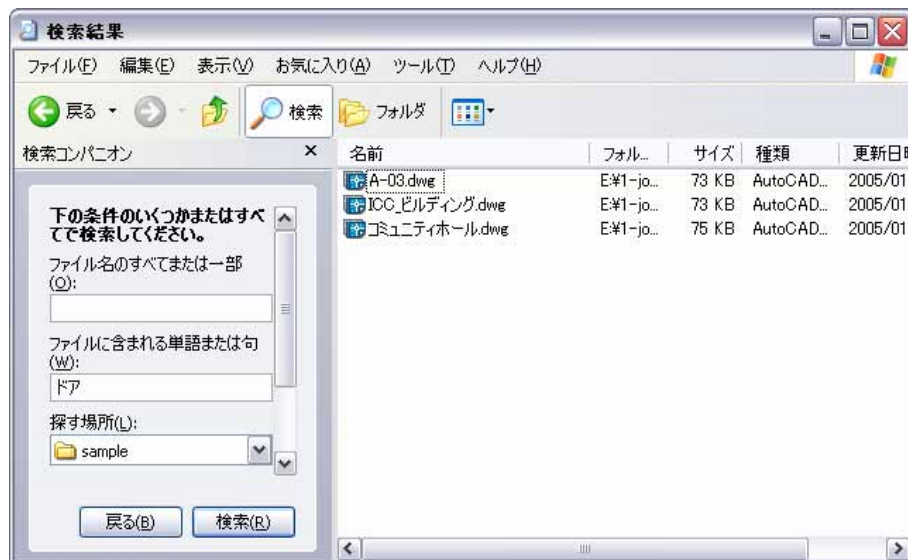
図 41. ツールバーとウィンドウのロック

## Windows エクスプローラで AutoCAD ファイルを検索する

AutoCAD で設計プロジェクトを進めるうち、図面ファイルの数が何百、または何千にも増えることがあります。特定の図面ファイルを大きなネットワーク システム上で見つけることは簡単ではありません。もちろん、ファイル名が分かれば Windows エクスプローラで検索できます。しかし、ファイル名も分からないことがよくあります。

AutoCAD 2006 では、Windows エクスプローラの検索ツールによって、DWG ファイルや DXF ファイルを、それに含まれる特定の単語や語句によって検索できるようになりました。たとえば、Windows エクスプローラで「ドア」という単語を検索します。「ドア」という単語が文字オブジェクト、画層名などに使用されているすべての図面ファイルが、ファイル リストに表示されます。

図 42. Windows エクスプローラでの検索結果



## 破損した図面を復元する

理想の世界では、停電やソフトウェアのクラッシュがまったく起こらないでしょう。しかし現実の世界では、AutoCAD が異常終了した場合に図面ファイルを手早く簡単に復元する手段が必要です。

新しい[図面修復]機能では、バックアップ(BAK)ファイルや自動保存された図面ファイルを、フォルダ内で手動で検索したりファイル拡張子の変更したりすることなく使用できます。

図 43. 図面修復



# 共有する

## 吹き出しによる外部参照変更通知

図面に含まれている外部参照ファイルを 1 つまたは複数変更した場合は、ワークフローを極力乱さないためにそれらの外部参照ファイルをできるかぎり早急に再ロードする必要があります。

AutoCAD 2006 では、この変更された外部参照の再ロードが合理化されました。通知リンクをクリックするだけで、外部参照管理機能を起動する必要はありません。外部参照管理を起動する必要がある場合は、ステータス バーの外部参照アイコンをクリックして、外部参照ファイルの状態を確認し、必要に応じて再ロードすることができます。

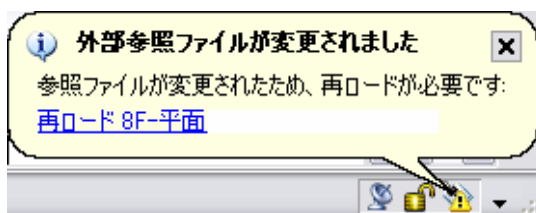


図 44. 吹き出しによる外部参照変更通知

## 重なったオブジェクトの交差する外観をプレビューする

AutoCAD のこれまでのリリース (バージョン) では、プロッタ環境設定エディタによって重なったオブジェクトの交差する外観を指定します。ただし、図面を実際に印刷するまで、交差する外観の結果を見ることはできませんでした。

AutoCAD 2006 では、印刷プレビュー機能が[重ね書きコントロール]が<線を重ね書き>に設定されたことを認識し、印刷前に結果を表示できます。印刷プレビュー機能がこのように改善されたことで、不要な印刷を防止して時間と費用を節約できます。

## 改善された DWF

どの業界でも、設計はコラボレーション作業であり、図面を社外のチームとも共有する必要があります。これまでの設計の共有方法では、多くの費用と時間を要していました。DWF (Design Web Format™) ファイル形式は、設計のコラボレーション プロセスにおいて有用ですが、DWF データには制限事項があるため、DWG ファイルとまったく同じ役割を果たすとはいえませんでした。

AutoCAD 2006 では、パブリッシュされた DWF ファイルにより多くの種類のデータを維持できるようになったため、ソースとなる DWG ファイルを共有するための軽量ファイルとしてより活用できるようになりました。新しくなった[パブリッシュのオプション]ダイアログ ボックスでは、ブロックのプロパティや属性、またシートとシートセットのプロパティを維持するよう選択できるようになりました。

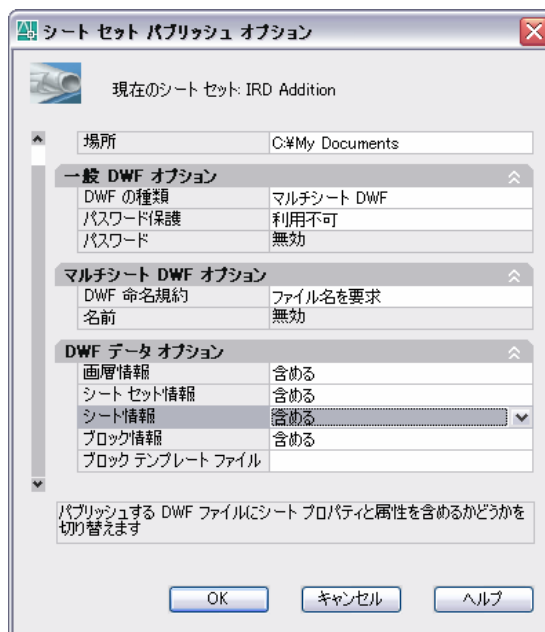


図 45. パブリッシュのオプション

さらに、開発者は、API (Application Programming Interface)を使ってカスタム オブジェクトのプロパティをパブリッシュできます。

また AutoCAD 2006 では、2D DWF が大幅に改善されただけでなく、3D DWF も扱えるようになりました。新しい 3DDWFPUBLISH コマンドを使用して、3D の AutoCAD モデルを DWF に書き出すことができます。(3DDWFPUBLISH の機能は、オプションでインストールできるプレビュー機能です。Express Tools 同様、正式サポート対象の機能ではありません。)

## さらなる効率化のために

AutoCAD の旧バージョンからのアップグレードは大変な作業になる場合があります。アップグレード プロセスは、できるだけ円滑に進め、パワフルな新機能を少しでも早く活用できることが望ましいといえます。AutoCAD 2006 では、AutoCAD の旧バージョンからの移行作業を促進する移行 ツールと新機能の学習が提供されています。

### 旧バージョンからのマイグレート

AutoCAD 2006 では、当面のワークフローの妨げとならない程度にすみやかにインストールと起動を行うためのツールが多数用意されています。まず、ライセンス取得/登録プロセスが改善され、AutoCAD のインストールとオーソライズが簡単になりました。また、AutoCAD の旧バージョンのカスタム設定やファイルを自動的にマイグレートでき、さらに別のマイグレート ツールによって、移行中も簡単に作業を進められます。

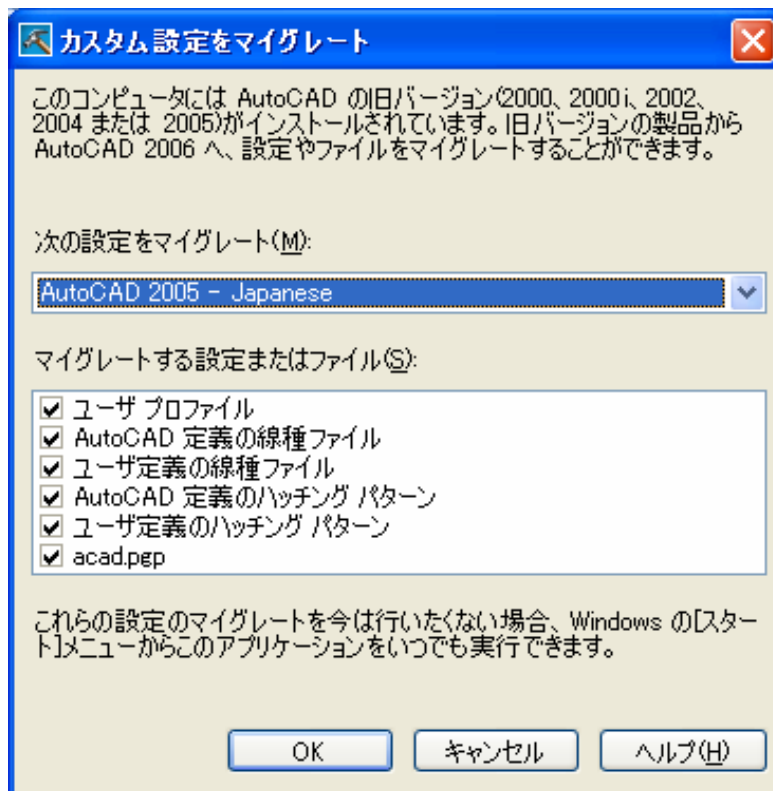


図 46. [カスタム設定をマイグレート]ダイアログ ボックス

### 新しい機能を学習する

AutoCAD のインストールが完了したら、当面のワークフローをできるだけ妨げずに新しい機能を学習できることが理想です。AutoCAD 2006 では、新機能ワークショップとクイックスタート リンクから、最も有益な新機能情報に手早くアクセスできます。

#### 新機能ワークショップ

新機能ワークショップでは、ユーザが新しい機能を学習できるようにデザインされた、アニメーションによるデモ、チュートリアル、機能の概要を見ることができます。新機能ワークショップは、初めて AutoCAD 2006 を起動したときに自動的に表示されるほか、[ヘルプ]メニューからいつでもアクセスすることができます。ここでは、AutoCAD 2006 の新機能についてだけでなく、AutoCAD 2004 以降の機能についてのトピックも参照できます。

[www.autodesk.co.jp/autocad](http://www.autodesk.co.jp/autocad)

### クイックスタートリンク

クイックスタートリンクとは、状況に応じて表示される関連情報へのリンクです。これらは、ソフトウェア内の適切な場所に表示されます。たとえば、新しいツールパレットを作成すると、ツールパレットをカスタマイズするための情報へのクイックスタートリンクが表示されます。

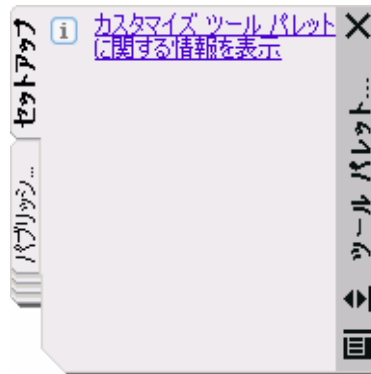


図 47. ツールパレットのクイックスタートリンク

### サブスクリプション関連情報

オートデスクが提供する年間契約の保守サービス、サブスクリプション に加入しているメンバーは、サポートやトレーニングなどのサブスクリプション専用サービスに、[ヘルプ]メニューから直接アクセスできます。

# AutoCAD® 2006 概説書

Autodesk, AutoCAD, AutoLISP, Design Center, Design Web Format, DWF および DWF Writer は、米国 Autodesk, Inc. の米国ならびにその他の国における商標または登録商標です。その他記載のブランド名、製品名は各社の商標または登録商標です。  
仕様は予告なく変更する場合がありますのであらかじめご了承下さい。

© 2005 Autodesk, Inc. All rights reserved.

**Autodesk®**

[www.autodesk.co.jp/autocad](http://www.autodesk.co.jp/autocad)

PTD05001-03(SW) 5

**32**